

新型コロナワクチン接種の効果・副反応について

新型コロナワクチン接種は、みなさまに受けていただくようお願いしていますが、強制ではありません。ワクチンの効果と副反応について正しく理解したうえで、接種を受けましょう。

ワクチンの効果

(出典：首相官邸ホームページから抜粋)

今回承認された新型コロナワクチンは、2回の接種によって、95%の有効性で、発熱やせきなどの症状が出ること（発症）を防ぐ効果が認められています。（※インフルエンザワクチンの有効性は約40～60%）

また、このウイルスの感染により、国内では令和3年1月末までに6千人以上の方が亡くなり、3万人以上の方が入院されています。特効薬も開発中の段階です。こうした中で、多くの人に接種を受けていただくことにより、重症者や死亡者を減らし、医療機関の負担を減らすことが期待されます。



ワクチンの副反応

(出典：首相官邸ホームページから抜粋)

どんなワクチンでも、副反応が起こる可能性があります。一般的にワクチン接種後には、ワクチンが免疫をつけるための反応を起こすため、接種部位の痛み、発熱、頭痛などの「副反応」が生じる可能性があります。治療を要したり、障がいが残るほどの副反応は、極めて稀であるものの、ゼロではありません。

接種を受けた後に副反応が起きた場合の「予防接種健康被害救済制度」

一般的にワクチン接種では、副反応による健康被害（病気になったり障がいが残ったりすること）が、極めて稀ではあるものの、なくすることができないことから、救済制度が設けられています。

救済制度では、予防接種によって健康被害が生じ、医療機関での治療が必要になったり、障がいが残ったりした場合に、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金等の給付）が受けられます。申請に必要な手続きについては、健康増進課へご相談ください。 健康増進課（☎71-1814）

新型コロナワクチンを受けた後の注意点

■ 注意点

- 激しい運動は控えてください。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部位を強くこすらないようにしましょう。



■ 接種後、すぐに現れる可能性がある症状

アナフィラキシー

- 薬や食べ物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。
- じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。

血管迷走神経反射

- ワクチン接種に対する緊張や強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が回った時に気を失ったりすることがあります。
- 誰にでも起こる可能性がある体の反応で、通常、横になって休めば自然に回復します。

接種日(当日)